



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20 四谷ヂンゴビル 2F

災害対策本部 (03)3351-5038 アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp



## < 目次 >

1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い
2. 今後の会議・報告会の予定
3. 災害対策会議の報告
4. 石巻・現地情報
5. 石巻・現地支援活動報告
6. 支援者のグリーンワーク的サポートのご案内

## < 1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い >

9 月は遊楽館閉鎖があり、退所支援ため人手が必要です。

多くの方の協力をよろしくお願い致します！

## 9 月

日付	事務所	現地	日付	事務所	現地	日付	事務所	現地
1 [Thu]	2	3	11 [Sun]	休	4	21 [Wed]	2	
2 [Fri]	2	3	12 [Mon]	2	4	22 [Thu]	2	
3 [Sat]	2	1	13 [Tue]	2	4	23 [Fri]	1	
4 [Sun]	休		14 [Wed]	2	4	24 [Sat]	2	
5 [Mon]	2		15 [Thu]	2	2	25 [Sun]	休	1
6 [Tue]	2		16 [Fri]			26 [Mon]	2	3
7 [Wed]	2	3	17 [Sat]			27 [Tue]	3	4
8 [Thu]	2	3	18 [Sun]	休		28 [Wed]	1	4
9 [Fri]	1	3	19 [Mon]	2		29 [Thu]	2	4
10 [Sat]		4	20 [Tue]	2		30 [Fri]	2	3

\* 数字は必要な人数・ は足りていることを表す

(9 月 5 日現在)

支援活動協力員登録人数( 9月8日(木) 現在 )

- ・ 現地支援活動協力員 : 171 名
- ・ 事務所支援活動協力員 : 91 名

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

[災害対策本部\(03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp\)](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10～17 時

メールでのご連絡の際は、件名に「(現地)または(事務所)災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。

#### 現地支援活動について

宮城県石巻市の避難所「遊楽館」へ、1 日 4～5 名を目標に派遣を行っています。

- ・ 車を運転出来る方が望ましいですが、複数で行動していますので、運転できない方もご相談くだされば、対応できます。
- ・ 引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中 3 日以上活動をお願いしたいと思います。できれば 1 週間来ていただければ、理想的です。

#### 事務所支援活動について

活動日程 : 月～土、祝日 の 10 時～17 時 半日での参加も可能です

活動内容 : 主に現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理  
1 日 4 名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、できるだけ事務所に来やすい方を希望します。事務所協力員に関しては交通費 1200 円上限と当面させていただきます。多数ご協力をお願いします。

#### 寄付金の振込口座:郵便振込口座

資金が底をつきつつあります。皆様の更なる協力をお願い申し上げます。

口座名義 : 日本MSW協会災害支援金

口座番号 : 00100 - 1 - 89515

支店名 : 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)

口座種別 : 当座

他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別 : 当座預金 支店 : 〇一九(読み方:ゼロいちきょう)店

口座番号 : 89515

備考 : お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

ご協力いただきました寄付の用途については、理事会(2011年3月27日開催)において当協会の行う東日本大震災 災害救援活動に使うことと決定いたしました。

#### 活動内容の掲載について

石巻以外の地域で活動している方や被災者を受け入れている機関などの活動を本紙に掲載したいと思います。ご協力いただける方は[災害対策本部](#)までご連絡ください。

## < 2 . 今後の会議・報告会の予定 >

### 災害支援対策会議・報告会

日 時 : 2011 年 9 月 28 日 ( 水 ) 19 時 ~ 21 時

場 所 : 日本医療社会福祉協会 会議室

申込み : 不要 ( 直接会場へお越し下さい )

## < 3 . 災害対策会議の報告 >

平成 23 年 8 月 29 日 (19 時 ~ 21 時) に日本医療社会福祉協会会議室にて災害対策会議が行なわれました。詳細は下記を参照してください。

現地ボランティア調整時の人数・日程について

ボランティアは 1 日 5 名で現地活動は 3 日以上を原則とする。

\* 不安なところは、事務所ボランティア 取出氏 草水氏の流れで個別に対応。

日本協会会員への様々な情報周知について

9 月中に、10 月以降の活動方針を一度ファックス送信することを理事会で検討を依頼。

ニューズレター更新の際・現地日報は、登録しているボランティアに一斉メール送信し、情報周知を図る。

秋田・山形など東北近県支援体制について

各県協会へ、活動報告をするボランティアを募っていく。

現地への入り方について

アパートに前泊の場合、鍵の問題あるため、遊楽館の活動時間内 (17 時まで) に、遊楽館へ自力で到着するようにしていただく。その後、一緒にアパートへ移動。

各種現地情報の更新について

現地ボランティアのマニュアル更新は現地に入った人が、必要だと感じた時に事務所ボランティアに送ってもらうシステムにする。マニュアル更新フォーマットを事務所ボランティアで整備し、公文書発行時に郵送する。

事務所ボランティアの体制について

指示を出したり、決定できる人が必要なため、窓口を取出氏に統一。

現地で事務所にわかってほしいことや、理事会で決まった方針は速やかに取出氏へ連絡。

(災害用携帯 取出専用 090-6550-5924)

災害対策会議の議事録について

今後は事務局からの送信は中止し、ポイントをニューズレター化していく。

ボランティア応募フォーマットについて

ボランティア登録の条件や注意事項、その他の情報を掲載する。(8 月 31 日対応済)

## < 4 . 石巻・現地情報 >

石巻での活動内容      内容は状況により変動します

- ・ 遊楽館利用者への相談支援
- ・ 遊楽館から退所した人へのフォローアップ
- ・ 域外の病院に入院している人への退院支援
- ・ 地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- ・ 福祉関係職種との連携と協働(カンファレンス)
- ・ 退所サマリー、経過サマリー作成業務
- ・ 仮設入居時同行、引っ越し同行
- ・ 仮設住宅での支援活動
- ・ 在宅医療を担う医療機関との連携

### 宿泊場所

5 月 23 日より、2LDK のマンションを宿泊場所として使用開始しました。

\* JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約9分

\* 駐車場 1 台(原則移動車 1 台以外は、遊楽館に駐車となります)

\* 布団はありますが、シーツ・枕カバー、タオルなどはご持参下さい。

## マンションでの生活用品の寄附を募集中！

詳しくは災害対策本部までお問い合わせください。

### 現地移動車両

中古車販売のガリバーインターナショナル社のご厚意により、当会へ半年間自動車を 1 台貸与していただくことになりました(保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています)。

今後は現地ボランティアの皆様の足としてアパートと遊楽館との往復、支援活動にご利用いただけます。詳細とお願いは、次の通りです。

- ・ 車種 トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501ち 3967」 銀色
- ・ 利用される場合には、安全運転はもちろんですが、車の調子の確認、ガソリンの補給(給油したら協会に請求してください)、および鍵の管理をお願いします。
- ・ 駐車違反・盗難等に注意してください。

### 携帯電話

ソフトバンク様より、当協会へ 20 台の災害用電話の無料貸し出しをしていただきました。7 月 1 日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

## < 5 . 石巻・現地支援活動報告 >

武山 ゆかり ( 東京都MSW協会 )

期間: 8月7日 ~ 8月10日

8月6日(土)仙台は、七夕祭りに集まるたくさんの観光客や近隣の町から集まった笑顔の家族連れで賑わっていた。昨年、穏やかな春の日に、石巻への出張で利用したローカル色豊かな JR 仙石線は、七夕飾りを堪能した家族や買い物帰りの乗客でいっぱいだった。未だ全線復旧はしておらず、まずホームの「乗り換え」表示を確認する。島々に守られ、被害の少なかった松島海岸には、観光客も多く降りた。そこから先の沿岸をたどる区間は、バスへの乗り換えが必要だ。外海に面した陸前大塚駅付近は津波の爪痕が続く。ため息の出る悲しい景色の中を通り抜け、再び仙石線へ乗りこみ石巻へ。内陸にある遊楽館へ向かう電車の待ち合わせ時間までを利用して石巻駅周辺を歩いた。3月の終わりに泥だらけの石巻の町を、市街地に乗りあげ傾いた大きな船を迂回しながら歩いた時には、どうしようもない苛立ちと悲しみに言葉もなかった。5か月を迎えようとしている今は街の角に、信号の代わりにヘルメットの県警職員が立ち笛を鳴らす。所々に店を開けている商店が「被災した品物ですが、よろしければお使い下さい」「震災特価です！」と自らも被災しながら助け合い、励まし合っている。駅前のかつての商店街はまだほとんど壊れたシャッターを降ろしたままだが、ヒマワリが植えられたプランターが並び、張られたロープに子ども達の「ねがい - 元の石巻に早く復興しますように」と書かれた短冊がはためく。3月は泥と瓦礫に埋もれていた石ノ森章太郎のコミックの主人公は、品物の無いショーウィンドの前で、今は「希望」に向けてスックと立っている。

津波に襲われ真っ暗なままだった石巻市役所の1階には、名産品や日用品の店が入り、災害支援応援コーナーも出来ていた。たくさんの寄せ書きや激文が貼られ、訪れた人へのメッセージが「お一つずつお持ち下さい」と置かれていた。『楽しみカエル』の折り紙や力強く『生きる』と書かれたカードがボランティアの手で作られ人々を励ましていた。

石巻観光協会売店の弁当を手にのりこんだ電車で30分弱。最寄りの前谷地駅からタクシー区間で「遊楽館」に午後四時到着。7月に続き二度目の支援とのことで、もうすっかり遊楽館に根を下した亀田総合病院のNワーカーに温かく迎えられた。入口には北海道と書かれたピブスを着けた受付職員2名、次にずらりと並んだ看護師の前を通り挨拶する。アリーナに並ぶ段ボール製ベッドは、最盛期に比べると随分の余裕。それにほとんどベッドにはおらずテレビやお茶のコーナーに和やかに集っている。アリーナとは通路を挟んだ医療・SW等スタッフコーナーにまずは落ち着き、明日からの支援に必要な資料に目を通した。これから今日の振り返りと明日の業務の予定書き込みの時間と言うNさんと一緒に初めての業務を行い、日報を日本協会事務所に送った。入所者は夕食を終え、まだ日没には一時ある夕方の山の景色を眺め、かつての暮らしか、明日にか、想いをはせている。

日暮らしが鳴く頃、夕やみに追いかけられるように古川の宿舎に向かった。とっても狭いトイレと小さなユニットバスのピンクの外装の新婚向けマンションで5泊、毎晩のように若いNさん、日本協会理事のHさん、県協会をしょって立つFさんと毎日、尽きることなく話し、励ましあい、話し疲れて眠った。全任者のTさんも「感想ノート」に記した面々も、「新婚のように」たくさん語ったと書きこんでいた。その意味でも参加したそれぞれがソーシャルワークの原点を、自らに問い、仲間と共に考えあえる、素晴らしい機会であったようだ。

石巻は、仮設住宅があちこち、飛び飛びに出来、合併前の旧市街に近いところで広めの仮設は人気があり、病院にも遠方で狭いところは保留やキャンセルが当然多い。入居に悩む方の相談にのり、市の介護保険担当者と支援の継続して必要な方の入居先を調整するなど、きめ細かな対応や離れて避難する親族への働き

かけなどに追われる。関係機関や遊楽館内部のスタッフとの会議や協議も繰り返し行われ微妙な入所者の心理に添う運営が大切に進められる。こうした組織運営を創りあげて来た前任 MSW 諸氏の力の大きさと苦勞に頭が下がる。そして、その中で慣れないなまりを懸命に聴き取りながら相談・調整業務を進める若いワーカーたちのガンバリも貴重な。9月末には、避難所は閉じられる予定であり行き先への不安は、残っていく者ほど強い。サポートを多く必要とする方々を集めてのエリアを予定する仮設の建設や入居者調整がやっと進められ始めている。しかし入居者自身の声が届く、新しい生活の場の確保は、これからだ。仮設に入った後も、SOS や寂しさの表出が出来る関係をつくる素地も、ここで創って送り出す。入所者の中には、親族を失い、生きる希望も健康も、一時は失った人も少なくない。「でも、みーんなが、いっしょ懸命にやってくれるでしょ。これはこっちも生きなくちゃ、と思うたのさ」と語って下さる方に、5日間に二人も出会った。

安全な山の中に位置する「遊楽館」での業務終了後、短い日没までの時間に急いで海沿いの地区に向かった。被災したその地区の包括支援センターとは頻繁なやり取りがある聞きなれた地区だが、その「生活」は大きく破壊されていることが、行ってみて分かった。まだ、大津波に襲われたそのままに、大きな口を開けたままの家々が延々と続く。幽霊のように外壁が垂れ下がる大型倉庫群、錆つき横たわったままの船。崩れた堤防の向こうは、嘘のように静かな夕映えの海面。女川地区が復興するには、まだまだ日にちも、そして大きな金額の支援が必要だろう。そしてこういう海岸線がずっと千葉から岩手まで続いているのだ。「未曾有の」という言葉を今回は頻繁に使う。この被害を乗り越えるには、その日安全なところにいた、日常をすぐ取り戻せた者たちがそれぞれに、もっともっと、力を尽くすことが必要だ。そのことを、この地に立ち、被災者と話し、強く感じて欲しい。遠方から、来て、働いてくれることへの感謝が生きていく意欲に繋がり、そのことが私たちが働く力となる。励ましに来た「歌のボランティア」にともに涙し、「応援力士」のシコに力をもらい、トークと一緒に笑い転げる。そんな時間も含め、たくさんの方が来てくれることが、復興への小さくとも確実な一歩になっていることを実感した5日間であった。

## < 6 . 支援者のグリーンワーク的サポート・セッションのご案内 >

日本医療社会福祉協会として、災害支援にかかわる支援者支援が重要である認識より、笹岡前会長と、佐原会長がルーテル学院大学福山教授にサポート・セッションの実施の要請をし、現地におけるグリーンワーク的サポートのセッションが実現しました。(資金は、すべてチャイルドファンド・ジャパンがご負担くださっています)

現地ボランティアの方は、現状を目の当たりにして気持ちをひきずったまま帰る、また、帰ってから自分を責めたり、不全感を感じたりなどします。このことは、現地に来て支援者自身が影響を受けていることを意味し、専門家も支援を必要としていると受け止めるべきです。

「現地に行く事に意味がある」「現地に行くボランティアも被災をする」「自分の貢献内容を明確にする」「できることの限界を知り対処する」等…。セッションを通じて現地の活動に関する理解を深めていくことにより、現地ボランティアをサポートすることを目的としています。

副読本として「(さよならのない別れ 別れのないさよなら)や「月間福祉(東日本大震災に関する特集、福山先生の論文も掲載されている)」が、チャイルドファンドからいただける特典があります。

\*既に7月24日、8月14日・15日、9月4日の4回は終了しております。

**予定 : 9月18日 午後3時間**

**対象 : 現地で活動をされている方**